

第3回 観音寺市民会館開館準備実行委員会【要約】		日時	平成27年3月23日(月)19:00~21:00
		場所	三豊地区電子計算センター3階第1・2委員会室
出席者	委員11名(欠席3名)、事務局6名、事務局補2名		
議題	(1)第2回議事録(要約)について (2)旧市民会館の開館事業及び近隣類似施設との比較について (3)開館記念式典について (4)プレ事業について (5)その他		
<p>1. 開会 開会のあいさつ。</p> <p>2. 委員長あいさつ 委員長のあいさつ。</p> <p>3. 議題</p> <p>(1)第2回議事録(要約)について 資料を元に議事録(要約)について説明。確認の後、内容を承認。 承認した内容を市のホームページで公開。</p> <p>(2)旧市民会館の開館事業及び近隣類似施設との比較について 資料を元に旧市民会館の開館事業について説明。</p> <p>委員より事前に頂いた質問について説明。</p> <p>【事務局回答】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・質問1「市民会館のコンセプトとは何か」について。コンセプトという表現では明記されていないが、観音寺新市民会館建設基本構想に記載されている基本理念「音を観るまち“文化芸術クリエーションホールをめざして”」がそれに当たると考える。管理運営検討委員会において、この基本理念は、音楽・演劇・ミュージカル・伝統芸能等、様々な文化芸術活動に欠かすことができない“音”を、まちや地域に広げ、文化芸術を身近に楽しむことができるまちの活動拠点となる施設を目指す、という意味があるという意見に至った。そして、この基本理念を実現するための5つの事業方針(1:育成普及事業、2:活動支援事業、3:鑑賞事業、4:交流事業、5:情報発信事業)が観音寺新市民会館管理運営計画(以下、管理運営計画とする)にて整理されている。</li> <li>・質問2「市民会館を核としたブランド化を考えているか」について。新市民会館だけをブランド化するのではなく、新市民会館での活動を地域づくりに活かし、観音寺市のブランド化、シティセールスにも繋げていきたいと考えている。例えば、管理運営計画にて整理されている5つの事業方針の内、育成普及事業・活動支援事業等によって、文化芸術に親しむ市民が増え、文化芸術活動がまちや周辺地域へにじみ出て、賑わいを創出する。更に、そのような活動が観音寺市のイメージとして定着し、市内外へ伝わることで都市の認知度が高まり市民の誇りのひとつとなるだけでなく、ひいては観音寺市が持つ魅力を効果的に広く発信することに繋がる。新市民会館整備は、このような役割を担う施設のひとつと考える。なお、これらを実現させるためには、中長期的に活動を継続させるという視点が必要であるため、管理運営計画の中には中長期計画も整理されている。</li> </ul> <p>【委員意見・質問】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・コンセプトは「考え方」という解釈もあるが「一緒につかむ」という意味もあるのではないかと。コンセプトを活用した成功例として小出郷文化会館、早期からブランド化を意識した例として金沢21世紀美術館がある。新市民会館もしっかりとしたコンセプトを持ち、情報発信ができる施設になればと考える。また、地域資産がこのコンセプトに結びついていかなければならないと考えるが、現在地域にどのくらいの文化資産があるかは調査済みなのか。</li> </ul> <p>【事務局回答】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・管理運営検討委員会においても、現在地域にある文化芸術活動の情報を収集・蓄積し、それ</li> </ul>			

らを新市民会館で発信すると同時に、活動どうしを繋げて欲しいという課題が挙がり、管理運営計画の5つの事業方針の内、情報発信事業に整理されている。市としても少しずつ情報を収集しはじめているが、現段階では、市の文化協会、市が主催している市民音楽祭や市民文化祭、市の文化施設で実施されている発表会等に留まっている。団体に限らず、個人からも情報を収集し、開館の時期には情報発信ができるよう準備を進めている。どうか今後ともご協力のほどよろしく願いたい。

**【委員質問】**

- ・中新田バッハホールという施設は、音の響きが素晴らしく国内外のアーティストからの評価が高いと聞く。新市民会館も音響に力を入れていると聞けが、その特徴が評価を高める武器になるのではないか。

**【事務局回答】**

- ・もし、中新田バッハホールと同じような音響環境を持つ施設があったとしても、建物だけで施設の評価は得られない。運営者やスタッフの対応が行き届いたものでなければ、高い評価を得ることはできないと考えている。施設の評価は、施設環境だけではなく、施設に従事する人のサービスと共に高まるものであるため、今後実施される指定管理者の選定も重要である。

**【委員意見】**

- ・観音寺における既存の文化芸術の洗い出しは十分ではなく、まだまだこれからであり、最初から明確なコンセプトを打ち出すことは難しいと考える。まずは、いろいろな意見をもっと柔軟に出し合いながら議論を進めてみてはいかがだろうか。それらをひろい集め、発見し、発信していくことが観音寺らしいといえるのではないか。優れた文化芸術に触れる、皆で何かを楽しむ等、いろいろなレベルの活動があってよく、それらが総じて「魅力があるぞ」と思ってもらえるようになればと思う。

**【委員意見】**

- ・コンセプトは具体的な話を進める上でひとつの軸となる重要なものだ。ただ、観音寺市は、先ほど例として挙げた金沢21世紀美術館のある金沢市とは積み重ねてきた事情が異なる。観音寺市の場合、肥料をまけば花が咲くという状況にはないので、まずは種をまくところからはじめるとよいのではないか。同時に、そのエネルギーを中長期的に持続させることも重要である。また、前回の管理運営検討委員会の中では、コンセプトを実行する軸になる人が誰なのかというテーマもよく挙がっていた。どういった施設であれ、成功していると聞くケースでは中心となる人物の存在がある。新市民会館においても誰が軸になるのかというテーマは重要である。

資料を元に近隣類似施設との比較について説明。

**【委員質問】**

- ・前回の委員会にて、能舞台がある施設であることを打ち出すために、プレ事業でも能を実施した例が紹介されていた。新市民会館の環境を一番活かすためのプレ事業には何があるかを知りたい。

**【事務局回答】**

- ・前回紹介したその施設は、大・中・小ホールが計画されており、演劇を主目的として計画された中ホールに能舞台を組むことができる特徴を持っている。この特徴を示すためのプレ事業であった。また、能の活動が盛んな地域であることも背景にある。新市民会館の場合、音響反射板を持つ多目的なホールとして計画されている。様々な演目に対応できるということを示していくという考え方があるのではないか。

**【委員意見】**

- ・新市民会館の場合、音楽向けの小ホールが特徴的である。県内では他にない。

**【委員質問】**

- ・オペラをやる場合、どの程度の規模のオーケストラが入るのか。

**【事務局回答】**

- ・客席は前 3 列を取り外し、疑似的なオーケストラピットのスペースを設けることが可能である。そこを演奏スペースとした場合、約 30 人程度が想定される。

**(3)開館記念式典について**

**【委員質問】**

- ・開館記念式典では、式典だけではなく公演も実施することが考えられるが、これについて意見を頂きたい。

**【委員意見】**

- ・新市民会館が開館したことを印象づけられるような、例えば、有名なオーケストラを招聘する等インパクトのある公演がよいと考える。また、市民から第九をやって欲しいという声をよく聞く。市民が参加するような事業があれば盛り上がるのではないかと。

**【委員意見】**

- ・式典だけではなく、公演も実施することが望ましいと考える。広く幅広い世代の方にも開館を周知できるような事業がよい。また、子どもたちも参加できるような事業もあるとよい。先日、文化庁主催の「文化芸術による子どもの育成事業」が常磐小学校で実施されたが、その時の子どもたちの目がいきいきとしていた。また、日本の古典的な芸能を観てもらえると華やかであると感じる。

**【委員意見】**

- ・同じく、記念式典の後に祝賀的な公演があるとよいと考える。

**【委員意見】**

- ・やはり、式典以外に何か事業があったほうがよい。多目的なホールであること、「音を観るまち」という基本理念があることを鑑みると、“音”に関係する様々な種類の公演をやって欲しいと考える。

**【委員意見】**

- ・式典だけでは集客力に欠けると思うので、何かしらの事業があればよいと考える。皆でつくるということを発信する意味で、アーティストと市民と一緒に参加できるものがあれば一番よいと考える。多目的で使えることをアピールするのであれば、観音寺に関する文化芸術活動を集め披露するというのもよいのではないかと。

**【委員意見】**

- ・式典や公演はもちろんやるべきだが、大ホールの席数は 1200 席しかなく、入場者が限られてしまう。新市民会館においては利用頻度を高めることも重要だと考えるので、市民も含め、多くの方に新市民会館に足を運んでもらうための仕掛けを考えた方が、より親しみを持ってもらえるのではないかと。

**【委員意見】**

- ・著名なアーティストを招いた公演と、市民も一緒に参加できる公演があるとよいと考える。岡山や四国からも足を運んでもらえるような演奏者を招ければと思う。また、招いたアーティストの方々に「観音寺新市民会館が良かった」と言って頂くことも情報発信のひとつとなる。

**【委員意見】**

- ・一流の方を招くというのはもちろん、一方で地域の方が参加できる事業もあれば楽しいと考える。観音寺においての“音”とは何かを自分なりに考えていたが、観音寺といえばやはりちようさの太鼓ではないかと思った。ちようさはまさに祝い事である。地域の昔ながらの“音”を探り、事業に取り入れるという視点もある。

**【委員質問】**

- ・新市民会館には大ホール・小ホール・多目的ホールの 3 つのホールが計画されている。この 3

つを効果的に見せることはできないだろうか。高尚な公演、市民や子どもたちが参加できる事業等の多様な事業を実施した例はあるか。

**【事務局回答】**

- ・先ほど出た意見にもあったが、大ホールのみを会場とする場合、客席数の関係で入場者が限られる。また、関係者の出席もあるため、市民の入場者は限定的になる。広く多くの方に参加していただくため、1日ではなく2日間に渡り、施設内の各所で多様な事業を実施した事例はある。ただし、この場合は人員や予算の負担は大きくなる。

**【委員意見】**

- ・式典を小ホールや多目的ホールで実施し、公演を大ホールで実施するという方法もある。そうすると舞台転換を行う時間を省略できるのではないか。

**【委員意見】**

- ・参加型の公演があればと考える。小学生や中学生が参加できるような事業があるとよい。例えば、アーティストを招き一緒に作品をつくり、その集大成を発表するというような事業が出来れば、子どもたちにとってもレベルアップのきっかけとなるのではないか。

**【委員意見】**

- ・予算の関係もあるが、アーティストに一定期間滞在してもらいながら作品を創造するアーティスト・イン・レジデンスということはどうだろうか。

**【委員意見】**

- ・長期的に滞在してもらうことは難しいかもしれないが、定期的に来て頂くことはできるのではないか。

**【委員質問】**

- ・いずれにしても、式典の他に記念公演を実施するという考えは一致している。公演内容については、優れた作品やアーティストを招聘する公演、市民が参加する公演の2に分類できる
- ・この委員会ではどこまで議論するのか。

**【事務局回答】**

- ・具体的な内容の提言までお願いしたい。

**【委員質問】**

- ・記念式典のみしか実施しなかった例はあるのか。

**【委員質問】**

- ・記念式典のみという例は近年ではほぼない。舞台開きという意味もあり、何かしらの公演があることが多い。

**(4) プレ事業について**

**【委員質問】**

- ・プレ事業で新市民会館を使うことができるのか。

**【事務局回答】**

- ・平成28年10月末竣工予定、平成29年4月開館予定である。竣工から開館までの間は習熟訓練や備品搬入等があるが、その間に使ってみるという方法もあるのではないかと考えている。

**【委員質問】**

- ・プレ事業で市民会館を使う場合、会場料等は無料となるのか。

**【事務局回答】**

- ・検討中である。

**【委員質問】**

- ・アウトリーチという手法も考えられるが、会館完成前にプレ事業を実施する施設の洗い出しは出来ているのか。現実に実行可能であるものを考えるためには、場所や予算が決まっていなければ議論が出来ないのではないか。

**【委員意見】**

- ・まずはこういった可能性があるかを議論したい。しかし、この場ですぐには思いつかないので、次回からは事前記入アンケート用紙を準備して頂きたい。そこに記入された内容を元に議論を進めたい。

**【委員意見】**

- ・既に活動をしている団体や個人の企画をプレ事業とするという方法もあるが、新しく企画を立ち上げることも考えられる。まずはいろいろな意見を出し合いたい。最終的に予算や時間の関係で実行できないという企画案も出るだろうが、可能性を広げるためにも情報を出し合う場としたい。

**【委員質問】**

- ・プレ事業は、いつから実施されるのか。

**【事務局回答】**

- ・開館の約1年前からを予定している。

**【委員質問】**

- ・先ほどプレ事業で新市民会館を使える可能性があるのは、開館の約3カ月前からと話があったが、どの程度使えるのか。

**【事務局回答】**

- ・竣工後は大量の備品類の搬入や整理、職員の習熟訓練期間も必要であるため、1カ月に2回程度が現実的であると考えられる。

**【事務局意見】**

- ・施設が完成していなくとも実施できるプレ事業はある。例えば、新庁舎を建設する際、工事用のフェンスに完成図を掲示した。同じように、新市民会館の工事用フェンスに完成予想図を掲示することも、プレ事業のひとつであると言える。

**【委員意見】**

- ・高松国際ピアノコンクールでは、商店街にフラッグが掲載されたり、マーチングバンドが公演したりしていた。これらはオープンするということを周知するには有効的だと感じた。また、前回に事例として紹介があったが、バスや車にラッピングを施す手法も実施したらよいと考える。

**【委員意見】**

- ・観音寺出身のアーティストの方を招いてプレ事業ができないか。まだ具体的に誰をというイメージはないのだが、観音寺にゆかりのある方を探してみてもよいと思った。

**【委員意見】**

- ・商店街にフラッグを設置したり、コミュニティバスにラッピングを施すという事業はやるべきだと考える。銭形まつりで観音寺市出身のアーティストを招致したことがあり、効果が高かった。旧市民会館で、観音寺出身で直木賞作家の芦原すなお氏の観音寺が舞台の作品「青春デンデケデケデケ」というお芝居を招致したことがあるが評判がよかった。新市民会館でもこういったことをやってみるとよいのではないか。

**【委員意見】**

- ・工事フェンスに完成予想図を掲載して「こんなができるよ」ということをアピールすることは実現できると感じる。その他、施設の愛称募集も有効的ではないか。西日本放送で定期的に観音寺市を紹介する番組がある。このようなメディアを活用して情報を発信していく手法もあるのではないか。

**【委員意見】**

- ・商店街では、第1・第3水曜の夜8時から、Ustream(ユーストリーム)というweb上の動画共有サービスを利用して、1時間の生放送を実施している。2年が経過し全国的にも知られるようになってきている。

**【委員意見】**

- ・昨年、市民の様々な年齢の方を対象としたミュージカルを観音寺信用金庫 6 階で実施した。コンセプトは「まちなか活性」であったので、稽古も観音寺で実施し、舞台に必要な材料集めも観音寺で行った。また、練習期間は半年以上必要であり、その間に参加者同士の世代を超えた交流もできた。今後も継続的に活動し、人材育成にも繋げたいと考えている。

**【事務局意見】**

- ・そのような活動が、プレ事業だけでなく開館記念式典や開館記念事業に繋がることも考えられる。

**【委員意見】**

- ・先日委員会で頂いた、完成予想イメージ図等が掲載されたチラシ等があればよいと考える。会員に案内を送る際に同封したり、各公演で配布することができる。

**【事務局意見】**

- ・来年度予算に広報費を要求しており、そういった広報物を作成する予定がある。

**【委員質問】**

- ・例えば、個人的にこのイメージ図を使って配布物を作成し、会員の方に配ってもよいか。

**【事務局回答】**

- ・委員個人でやって頂くことには問題ない。

**【委員意見】**

- ・観音寺市において、規模は大小様々あると思うが、定期的に文化芸術活動をしている団体や個人はいる。こういった活動をプレ事業として認めるという基準があればと思う。プレ事業として認められた活動について、便宜を図れる手立てはないだろうか。

**【事務局意見】**

- ・開館後の事業方針として、既存活動団体や個人の活動支援というものがある。これをプレ事業から実施していくということも考えられる。

**【委員意見】**

- ・友の会のようなものもあるとよい。

**【委員意見】**

- ・情報発信という意味では、テレビやラジオだけではなく、Facebook 等のインターネットサイトを開設するとよい。イメージ図も出来ているし、愛称やロゴマークの募集を実施するならば、広く情報を発信できるインターネットは有効的であると考ええる。

**【委員質問】**

- ・ネーミングライツは考えているのか。

**【事務局回答】**

- ・管理運営計画ではネーミングライツも含め費用を捻出していくとしている。愛称の募集ともリンクしていくことなので、早めに結論を出さなければならないが、現在は検討中である。

(4)その他について

**【事務局意見】**

- ・これまで市民会館に関しては、政策部庁舎等整備課が担当していたが、4月からは教育委員会の文化振興課市民会館開設準備室に担当が移る。
- ・次回は、4月27日(月)19時から三豊地区電子計算センター3階第1・2委員会室にて開催を予定している。
- ・先ほど意見で出た、事前記入用のアンケートを準備する。

4. 閉会

閉会のあいさつ。

以上

